

竜田古道の里山公園維持管理費に対し 濱浦議員以外からも「待った」の声が

3市が利用したのになぜ柏原市だけが負担？ 10年で約2億5000万円の支出に！

かねてから濱浦議員が指摘していた「竜田古道の里山公園の維持管理費」について、3月の議会でも、市（市長）に対して、改めて市議会の建設産業委員会から異議が申し立てられた。

羽曳野、藤井寺も含めた3市で管理すべき

「柏原市年間の管理費として3市（柏原市・羽曳野市・藤井寺市）が柏羽藤環境事業組合の負担はどうなっているのか。平成18年度、19年度に環境事業組合から計5000万円預かっており、まだ、一部残っているとのことだが、平成24年度予算に2500万円程計上されている。現在の残高は、700万円程と報告を受けている。今年度は、1800万円程不足するのではないかと考える。不足分を柏原市が負担する必要があるのか疑問に思う。」

これから先も維持管理費が年間に2500万円程かかるとすれば、10年で約2億5000万円かかることになる。



柏原市HPより

これに対し、市は「平成24年度一般会計予算に計上されている竜田古道の里山公園維持管理費の執行については、留意する」と回答した。しかし「留意」の真意は、「そのまま予算を通す」ということであらうと考えられる。このままでは、維持管理費は柏原市のみの負担となる。理屈のい

かないことに、財政難の柏原市が支出する意図が理解できない。ちなみに維持管理をしてきたNPO法人竜田古道里山公園の副理事長やスタッフは3月末で解雇されているが、いざずれにしても人員は必要であり、公園管理の年間費用をどうひねり出すか、大きな課題は残ったままだ。

留意とは、結局執行されること！

自衛隊に思う

はまうら佳子の 元気が出るコラム

「自衛隊」といえば、みなさんは何を連想されますか？うん、やはり、災害時のときの派遣ですね。自衛隊全体で、毎年800回ほど出動されているんですって。1995年の阪神淡路大震災ではのべ225万人、東日本大震災では3月19日から5月10日まで50日連続して、1日当たり10万人を超える規模の派遣が行われたそうです。



よね。台風があつたり、地震が起こつたり自然災害が多い日本では、自衛隊のみなさんの活躍があちらこちらで目につきます。ありがたいことです。

とはいえ、本来のお仕事は防衛なんですよね。日本はあまりにも平和なので、ピンと来ない人も多いと思うのですが、北の方からミサイルが飛んでくるかもしれないのですよ。

大量破壊兵器やミサイルなどがテロリストや関係国などに拡散する危険性が日に日に高くなっています。このため、この問題に対応していくことが重要な課題になっているのです。

そう、やっぱり日本国を守ってもらわないと、ね。

高齢者やけが人の方をおぶって救助したり、被災者のために炊き出しをしたり、大きなお風呂を用意したりと実に様々な活動をされ、大きく報道されていました。ほんとうに自衛隊がなかったら、もっとたいへんなことになっていたんじゃないかって私、思うのです。すごい力です。

まちの活性化に向けて頑張る オガタ通り商店街

高齢化社会に対応した接客など、できることから一歩ずつ改善へ

土曜の夜に会合し、イベント企画



少子高齢化社会のなか、「オガタ通り商店街」（井村則夫会長）が地元客、観光客に商店街の存在をアピールしようと、さまざまな企画で、まちおこしに取り組んでいる。

認知症サポート 講座は盛況！

3月末には清州老人会館において、柏原市（産業振興課・健康福祉部）・柏原市医師会・柏原市社会福祉協議会・柏原市商工会の共催で、オガタ通り商店会の商店主を対象とした「認知症サポーター養成講座」を開催した。認知症を正しく知って、日常の商いや生活の場で優しい接客やちょっとした手助けを学ぼうと企画されたものだ。当日は、認知症の基礎知識、その予防方法、患者をサポートする地域連携システム「さがしてねつと」の説明、DVDによる学習をしたあと、最後にロールプレイングが行われた。ロールプレイングでは、社会福祉協議会の職員扮する認知症のお客に対して、お店における接し方を実技で学んだ。予想できない発

JR柏原駅（東口）から近鉄堅下駅を結ぶ「オガタ通り商店街」には創業60年も続く店舗もあり、バブル期には大いに盛況だったが、この10年、①人口の減少 ②スーパーダイエーの撤退による通行量の減少（1日約2千人） ③経営者の交代などで、客足が遠のいてきた。この事態を打開しようとして、商店街の有志たちが立ち上がり、毎週土曜の夜、活性化に向けてのさまざまな企画を練っている。



かしわらイネットHPより

4月からはチラシ 配布などを実施

4月からは毎月第3金曜日には商店街を一斉清掃の日と決め、25日は商店街の地図を店名入りで掲載、クーパー券を入れ込んだ「折り込みチラシ」を配布した。



言やふるまいに対してどう対処するか、受講者たちは真剣に取り組んでいた。

さらに今後は、
①大阪教育大学の学生たちによる小・中学生への勉強会や各種サークルの実施（無料塾）
②空き店舗の活用
・サロン風休憩所の設置（トイレ設置）
・柏原地産商品の販売
・集古館の設置（展示会）
・コレクションの列品展示など学生たちへの文化的サロンに利用してもらう）
③観光マップの制作などに取り組んでいる。